

時事新報

法官の正義を維持するの說

今日日本の法官の正義を維持するに於て私利に迷ふるべきは内外人の普く許す所にして稀に或は例外の場合もあらざらんれども全體を平均して世界萬國比擬し得ざらんことを決して法官にはあらざる可し抑も我日本國に限りて獨り此美風を存する其原因は何れよりするを尋ねると畢竟その人を擧げて然りと答ふるの外なきが如くならんれども法官のみ特異な深遠なる可きに非ず他は官途に在る者ども等しく尋常一様の日本士人にして其職に在るに汚きたるの沙汰少なきは概して之を日本士族道徳の氣風なりと云はざるを得ず既其氣風の中に生育すれば事に當て故さらば廉潔からんとを務め若しんで自から戒むるに非ず本末不廉不潔の何ものたるを知らずして之を犯さんとするも其方法に必付かずして云はば悪事行に漢然として不案内なる者と評するも可からん蓋し日本の士族は數百年の久しき世に養はれて士族相互に補力名譽を争ふの念は甚だ熾んかりしと雖も其名譽あるものは正しく利益と相反して利を求めば名を得べからず名を成さんとすべしと云ふ可し

然りと雖も事の裏面より觀察を下すときは舊時の日本土族に一種の氣風を存し常に士の名を重んじて利を輕んじたるも本末その家に屬する世祿の利ありしが故なり人生既に衣食の虞なく次で名聲榮華の念を生じて之を重んずるも亦自然の道理なれば其常に利を語らざりしと云ふも左で驚く可きに非ず恰も之を語るの要用なきものなればなり若し當時の士族に附するに唯士族の名譽のみを以てして其名に伴ふの利祿なからしめなば人生の至情、必ずしも利心なきものにもあらざる可しと雖も然らざりしに單に世祿を養はれたるの功徳と云ふ可きのみならず今や天下に士族の名り存すれども世祿の利既に絶て病なし名譽は花にして利祿は實あり實ありの花よして能く人生の徳心を維持するに足る可きや我輩ふれと保證するを得ず左れば彼の法官が今日は何れ先達の餘慶に由りて士人の面目を失はんと雖も社會の人文漸く繁多を致して鐵の働は次第に其勢力を過ふし居る處世の人事都て鐵に依順するの風俗に導り行く其最中に私に自から省れば其身の官に在る間こそ先づ以て安樂なれ共官員の身の始中終は佛家に歸ゆるの如きものにして病氣死にの候は姑く一朝何りの事難に遣へば其免職非難は今日とも知れず明日とも知らず吾れや先き、人々先き、後れ先だつ者の本、學末の學より繁し新るる身の上にして己が地位と見れば天下公衆一人の利害を直接して片言片語で他の浮沈を制し可し千年の運命を握るの職を以て其身に擔す可きやあつたれども詞訴常用の輩

は一念たゞ勝利を求るの外なくして其これを求めるの術策は千變萬化虚實窮りなければ淺薄腐敗、知らず識らず何時しか賄賂沙汰に及ぶり或は之を知りながらも一身の私を謀り老後死後の家事を思ひやりて目を瞑みて之を貪るの場合なれと期す可らず我輩の今より過慮して深く恐るゝ所のものなり抑も此賄賂の行はるゝ内情は兎も角も其實實を見れば甚だ恐ろし可きに似せざるも人生の徳義心あるものは之を一人の相對に責む可きにみ平均の多數に向て徳心の働と豫期するが如きと今の文明の程度に居て無益に談ありと云はざるを得ず故に我輩は今より數年後の時勢を推察し我法官と責るに徳義の厚薄如何と以てせずして寧ろ其徳心と厚からしむる所以の手段を講論せんと欲するものなり其手段如何す可や唯其人を利益に籠内し包圍して安心の地位を得せしむるの一法あるのみと人生利心必り又徳心あり利は百徳の本にして其徳心の發達し得ざるは利の爲りか遮らるゝものより外ならず苟も利益の離るるものあらんか徳心も亦隨て其働を遠ふるを得べし尙や實際論の之を次に開陳せん (以下次號)

雜報

○西班牙は政事近況 先頃の郵船にて到着したる西班牙の新聞に據れば同國は攝政皇后の政事不満足心を抱くものあり一般に評議の有様にてカリス黨及び共和黨の勢力は最早大に衰微に至りたり先頃攝政皇后がカリス黨の中心とも申すべき北國地方に臨幸したる其模様を聞くと同地方の人民は固く現在の制度を執り變革を望まざるもれし如し將軍カマンカノ事件に就て西班牙政府は勇敢なる所置と施行し同將軍とキニヤ殖民地の太守となすべしと云ふ推察の允可を拒否行政を改良して同殖民地の通商を益盛昌ならしめんと熱心せる人を同太守に任せんと目下閣議中なり云々とロヤパンメールに見ゆ

○大坂砲兵工廠 東京砲兵工廠は主として小銃を製造し大坂砲兵工廠は専ら大砲を製造に従事し二者相俟て我陸軍兵器の製造を完からし先今日に至りては兵器を海外に仰ぐの必用を見ざるは軍事上一大進歩なるべしと云ふ大坂砲兵工廠の製造する者は加納砲師即ち海岸砲と山野砲の三種類として山野砲は是迄自製造したる者も各百八十門の多きに達し之に砲車彈藥等一切の附屬品を備へて既に各鐵道に配送せり斯の如く野砲の數に比較して山砲製造は多數なるは我國の地勢山脈伏起して山砲の便利多きが爲先なる由又海岸砲は伊國の製に倣ひ多年に實験を経て昨年に至り漸く完全なる成績を挙げ今其製造の具齊は備りたれば陸軍省は本年度中に口徑廿八センチメートル海岸砲四十門を製造せしむると決し其命令を同工廠に傳へたるに今日迄は十四五の砲身を鑄造し目下其仕上げ最中なり左れば其砲身は中々巨大にして之を運轉するは尋常力に依るも其重量に製せられて時間を費すと多く職工の熱心も未だ乏しくして思ふが程には事業の抄取らず地も本年中予定したる數と仕上ると難かるべし但し反對の如きも新に増設して一時五十餘門の砲を鑄造するとになり又職工の熱心も日々上進する有様なきは本年度に至らば陸軍省の命令せる砲數を仕上るのさからず更に新砲の鑄造を取扱ふと容易なるべしと此他口徑廿四、十九、十五、十二センチメートルの各種海岸砲三四門宛製造中にて何れも其成功を帯ぐものと見え流般來は

午後九時に至るまで夜業をかし居る由目下同工廠の職工は都合一千餘名有りて日々製作に従事せりといへり○大膽なる試験 佛國の理學者ゾアロツト氏は空中旅行の準備としてマウントブランクの山頂に登り三日三夜氣象及び生理上の觀察を爲したるが其間氏は寒氣の酷烈なると空氣の稀薄なると等より非常の困難辛苦を受けたれども其勇氣は能く是等の困苦に打ち勝ち十分なる觀察を遂げたりと云ふ

○東京府下の船舶 今度其筋を於て取調べたる東京府下現在の西洋形及日本形兩機五十石以上の船舶は西洋形汽船四百二十二艘、内登海七十八艘、不登海六十四艘、帆船二百六十六艘(登海)西洋形機帆船九十一艘(不登海)總計二百五十九艘、又日本形機帆船五十石以上百石以下は百九艘、百石以上三百石以下百九十七艘、三百石以上五百石以下二十七艘、五百石以上七百石以下六艘、七百石以上千石以下四艘、千石以上六艘なりといふ

○エモン ベイ 探軍の來るを知る ゴルドン將軍と共に深く亞弗利加内地に分けて一たび同將軍と分れし以來は四面に敵國をめぐりて應援の道路絶え其存亡も旦夕に迫れるエモン ベイの許へ此程ギンギルより使者を送りしに其使者は復命しる所を聞くに右はアルパートナイアンヤ湖を達し同所にてエモン ベイ及び麾下の兵士は會し使者の口上と共に心強く援軍の來着を待つべき旨を述べたるが同所近傍にてはウガンダ國王とアンゴロ國民の間お劇し死闘争を爲し同王の敗績後聞かき時なるが故お通路甚だ困難なりし由倫敦九月十七日發の報に見えたり

○朝鮮新聞 是急を解停を得て去る十六日より發行したり同社は今度尾崎行雄氏を招聘して編輯局員を増し小説及び雜誌の欄を設けて紙面の改良を爲し昨日は通例月曜の休暇ありしも引續きて刊行せり

○元氣表彰大運動會 來る廿三日の日曜午前八時より多くの志士九段坂上に勢揃ひを爲し元氣表彰大運動會と云ふを催す由其目的趣向は左の如しといへり

一 吾人日本國民の不羈獨立剛毅活潑なる氣風を國の内外に發揚するを以て目的とす

一 各自寓志を表したる旗幟并に號數を携ふる等活潑なる扮装は最も可なり

一 會費あり

一 應辦當を持參すべし

○取引所條例 去る八月東京取引所創立委員は取引所條例及び細則中疑義の點を付農商務大臣へ伺書を差出せしに去る十三日を以て其指令ありたり其何并之れに對する指令は左の如し

第一條 條例第二章第十二條「會費たるを得る者は其取引所所在地の地に住居する商人云々」とあり住居とは寄留人を包むとあるべし其寄留日續く出入常さきもの加入を許すべし自然取引上の信用と薄うするの憂を去る一箇年以上寄留する者にあらざれば加入を許さざるの規約を設けて妨げなきや

寄留人の内にて親身又は家族は身分を携へて他人の家に寄寓する者等も去就決定せらるる者れば一家を爲したる寄留者にあらざれば加入を許さず又本條者等も他府縣より轉籍せし時限滿一箇年に至らざれば加入を許さざることなし妨げなきや

指令 別段の制限 第二條 前同條中「者に限り」とあり業者なり隨て何か標識否やと定難故と納むる者にあらず

指令 前條に同じ 第三條 細則第十條上の役員に限ると 指令 支配人以上 第四條 條例第十條を除名せられざる 指令 非職官吏は 指令 非職官吏は 指令 十二條(官吏は) 指令 相場商業者とも

第六條 條例第十條を賣買取引と爲し無論取引を爲し得ずしては取締法を以て會員は直取引の外は 指令 會員は取引 第七條 會員の規約を設ける 指令 會員の規約を設ける 第八條 會員の數を制限する 指令 會員の數を制限する 第九條 會員の資格を定むる 指令 會員の資格を定むる 第十條 前條に反し 指令 前條に反し 第十一條 細則第二條に役員たるを得る 指令 役員たるを得る 第十二條 代理を許さず 指令 代理を許さず 第十三條 細則第三條に爲す可し」とあり 指令 爲す可し」とあり 第十四條 定期取引に 指令 定期取引に 第十五條 細則第四條に爲す可し」とあり 指令 爲す可し」とあり 第十六條 本條の賣買取引 指令 本條の賣買取引

タタヤモント

和蘭國有名工師 粧飾品賣捌廣告

家賣 總町區三番町七十九番地(增神社ノ裏) 家凡廿四坪二四六八八疊及二階六疊瓦葺價二百圓但々

支店 東京上野區 支店 東京上野區